

国際機関が貧困救済を行っていることは有名なことですが、宗教という側面から貧困層に対してのアプローチがあることを知らなかったからです。そのプレゼンでは、Islamic Relief という NGO 団体がやっている人道支援について説明されていました。主な活動は、教育・安全な水・栄養対策など、貧困層が最低限の生活ができるような支援を行っているとのことでした。ちょうどこの時期はパキスタン大地震があった時期で、その被害者達への救済も紹介されていました。

このイスラム教の一日ラマダーンイベントを通して、宗教団体が、世界の貧困削減のアクターになりうることを認識しました。それが、次に書くキリスト教の貧困者救済プログラムへ参加させる理由となったのです。

3、キリスト教—貧困者救済プログラム—

今年の2月、私は Union Rescue Mission というキリスト教が母体である NPO に行き、ロサンゼルスダウンタウンで生活しているホームレスの人々をその組織がどう支援しているのかを見学しました。宗教団体が都市に住む貧困層にどのような貢献をしているのか、ということを実際に目で見るためです。

Union Rescue Mission は、近隣で生活する女性、子供を含めたホームレスの人々が最低限の生活をするのできる環境を提供すること、それから大人の男性に対して手に職をつけるプログラムを提供することを主な目的としています。まず、前者に関してですが、この機関では一日に3000食を人々に提供しています。また、ゲストルームが設置されており、200～400人が無料で宿泊でき安全に眠ることができます。週2回 UCLA の医療チームが彼らに対して無料でヘルスケアを行っています。後者に関しては、基本的なコンピューター操作を教育するプログラムなど、いくつかの手に職をつけるプログラムがあり、それをある一定期間履修することで、技術をつけることが出来ます。プログラム卒業生の実に78%が、職を見つけて社会復帰を果たしているということでした。このような貧困層への支援を考える時、その場限りでは終わらない、持続性のある支援形態であることが求められますが、この機関の支援はそれがなされているという感想を持ちました。

一通りの説明を受けた後、私は何人かのプログラムに参加しているホームレスの方達と一緒に施設の掃除をしました。彼らはあまり明るい性格ではなかったものの、それなりに黙々と仕事をこなしていました。そのうちの一人が言った、「God は毎日の生活に目標を持たせてくれた。何よりこうやって食べることが出来る。本当に感謝をしている。」というせりふは、本当に重い意味があると感じました。掃除が終わった後、私は図書館で遊んでいる子供達(彼らもホームレスです。)の遊び相手をしました。彼らは夢中で施設にあるビデオゲームをやったり、図書館の中を走

り回ったりしていました。彼らは少なくともその施設にいて、安全に、そして健康的に生活することが出来ています。この施設が彼らの将来に対して大きな貢献をしていることは明らかでした。

この施設見学で、宗教団体が貧困層の人々に対して大きな貢献をしていることを知る事が出来ました。

☆

いくつか例を書いてきたように、宗教は良い面をたくさん持ち合わせていると思います。ある意味では人々の心の支えとして、非常に重要なものであると思います。不安だらけで精神的に不安定だった留学初期に、私が宗教に非常に関心を持ったのも、もしかしたら無意識のうちに、それに救いを求めようとしていたのかもしれませんが。落ち込んでいた時期からある宗教を信じることにより、人生が素晴らしいもの変わったと話す知り合いが何人もいます。上述のように貧困削減などの活動により、救われている人も現に大多数います。同じ宗教・宗派であることは、人種を超えた、同胞意識を芽生えさせることを可能にさせます。

しかしながら、世界的に見た場合、そのような良い面は同時に悪い面ともなり得ます。一つの宗教(もしくは宗派)を受け入れるということは、同時に他を排除することでもあるからです。例えば、聖書—クリスチャンがすべて真実としているもの—にはキリスト教は他の宗教より優れていると明記されていますし、現在起こっている中東での争いは、イスラム教の宗派の違いが大きく影響しています。人々を幸せにするはずである宗教が争いの原因になっていることは、実に皮肉なことです。このような負の側面に対して各宗教がどう歩み寄っていくかが、これからの世界的な課題でしょう。

宗教を通じたこちらでの体験は、色々なことを考えさせてくれ、私の視野を広げてくれました。残りの留学期間で、さらに多くの体験をし、理解を深めていきたいと思っています。

	服部 祐也
	はっとり ゆうや
	早稲田大学政治経済学部3年
	California Polytechnic State University San Luis Obispo 校 留学中

編集長から一言	日本では経験のない、宗教を通じた貴重な体験の、服部君からの報告です。
「発展途上国の開発援助」が服部君の専攻とのことですが、宗教と弱者支援の活動を繋がり、彼自身の身体で感じたことは、今後の彼の勉強にとって大きな収穫であると信じます。	
彼の留学は、1年に満たない「短期」ですが、集中的で積極的な活動を続けて、宗教が社会の活動の源になっているという掘り下げた見方で身に付けてきています。あと、1学期、がんばってください。	